

つたざわ



学校教育目標

わくわく学び

いきいき挑戦する

児童の育成

ある新聞記事から

「優しさの貸し借り」

学校長 和田 光弘

昨年一月十八日の神戸新聞に、次のような記事が載っていました。

二十六年前、テレビに映った被災者の姿に心を痛め、八十五歳の人が神戸に宛てて便りをくれた。「古着ですが」…そうわびつつ、衣類を送るから使ってほしい、「応援しております」とある。以前訪ねた阪神・淡路大震災を伝える催しで、会場に展示されていた「激励の手紙」の一枚である。人柄がにじむ丁寧な文面もさることながら、送り主の住所地に見えた「熊本県」「益城(ましき)」の文字が忘れがたい。益城地方が熊本地震で大きな被害を受けたのは二〇一六年、阪神・淡路の二十一年後である。寒かった二十六年前の冬、私たちにぬくもりをくれた土地の人々がその後「被災者」になる。そうした例はほかにもいくつもあったに違いない。自分には何ができただろうか。永六輔さんは言うたという。「生きていくということは、誰かに借りを作るということ。生きていくということは、その借りを返していくこと。」被災地に寄り添う無私の心にもろん貸し借りなどあるまいが、胸にとめておきたい言葉だと思う。それはこう続く。「誰かに借りたら誰かに返そう。誰かにそうしてもらったように、誰かにそうしてあげよう」あの日もらった優しい気持ちを、どなたかに少しづつ…。いまを生かされている身のささやかな誓いとする。

(二〇二一・一・十八 神戸新聞「正平調」より)

平成七年一月十七日午前五時四十六分、山崎の地も大きく揺れました。私自身、「地震!」と思つたものの、今ほど防災訓練をしていない時代だったので、ただ布団に潜り込んで頭だけを守ったことを覚えています。揺れが収まり、勤めに出る準備をしながら見ていたテレビから、「淡路で大きな地震があつたようです。」「神戸に大きな被害が出ています。」という報道がどの局からも流れ始めていました。仕事場に着くと、珍しく職員室のテレビがついていました。黒煙が神戸の街の至る所からあがっている映像、高速道路の高架が

倒れている映像が流れています。「これはえらいことになった」と思いました。

そして、二週間後の二月初めにボランティアに参加して入った神戸の街は、ガス臭く、倒れたビルや家屋が道を塞いでいました。変わり果てた町を通りながら「元に戻らんかも」と思い避難所へ行きました。

避難所では、微力どころか無力であることを痛感しました。しかし、今でも忘れられないことがいくつかあります。

前日に成人式を迎えた娘さんを亡くされたお父さんと話したこと。こんな時でも和田岬にメバル釣りに行ってきたおじさんとそのメバルを食べたこと、倒壊した家の柱を避難所の薪として切らせてもらった時のチェーンソーの感触…。そして、避難所で被災者の皆さんの助け合う姿にこちらの心が引き締まったこと。各地から集まってくるボランティアの皆さんの献身的な姿に、また心が震えたこと。何より、家も工場も全壊したおじさんの「すぐにというわけにはいかないけれど、きつと立ち直ります。それが助けてくださった皆さんへの恩返しだと思います。」という言葉。今はまだ返すことのできない優しさをきつと返すという決意にも聞こえます。

「元に戻らないわけがない。きつと、元に戻る!」という気持ちがわき上がってきました。(帰る時、被災者の皆さんからの感謝の言葉に、被災していない地に帰ることが申し訳ないと感じたことも忘れられません。)

また、平成十六年に発生した新潟中越地震では神戸の会社員が被災地にいち早く駆けつけたこんな話があります。

「こんな遠くまで、神戸から。」
「神戸の(震災の)時は新潟の人にも助けてもらたさかい。お互い様ですわ。」
「会社はどうしたんですか。」

「社長に新潟に行きたい言うたら、『すぐ行ってこい』言われましたわ。」助けてもらった時の優しさの借りを返しにきた会社員やそれを当たり前

のことと考える社長さん。

平成二十八年に起こった「熊本地震」では愚息が被災しました。その時、友人たちと力を合わせ倒壊した家屋から住人を助け出したそうです。逆に、四月といっても前々日に雪が降るといって寒い熊本・阿蘇の夜でしたが、愚息が薄着だったので「寒いでしょう。」と上着と帽子を貸してくださったそうです。余震が続く中、至る所でお互いにこんな優しさの貸し借りをしていたそうです。

東日本大震災、熊本地震、各地で発生する水害…。そんなとき必ず傍らで被災者を助ける人がいます。そして、決まったように「お互い様ですから」と言いながら作業されています。永六輔さん風に言うところ、みんな「優しさの貸し借り」「生きていくこと」の実践者であると思います。

そして、こんなことも思います。

災害という差し迫った場面での「優しさの貸し借り」でなくてもいいのです。蔦沢っ子たちも、毎日の生活の中で「優しさの貸し借り」ができ、「お互い様」の気持ちをもって生活してくれたいいなと思います。お互い関わりながら過ごす学校生活。時にはケンカになったり、思い違いがあつたりするのは、お互いの関係が近いからこそ起こることです。でも、困ったとき、迷ったときにお互いのことを思いながら優しい気持ちをもち過すことで、やっぱり「あの子がいてよかったな」と思えるのだと思います。そんな「優しさの貸し借り」ができる関係が築けるのが学校だと思ふのです。

元々「防災教育」について書くつもりだったのでエキスのみ書きます。

蔦沢小学校では、子どもたちの命を守ることにつなげる学年に応じた防災教育の取り組みを実施しています。また、一月十七日には、避難訓練を行うとともに「一・一七を忘れない集会」を開く予定です。

そして、私たち教職員は、次の三つを心にしっかりと持ち、教育活動を進めていきます。

○私たち教職員は、いつ起こるかもしれない災害に備えます。

○私たち教職員は、「命を大切にする子」を育てます。

○私たち教職員は、かけがえのない命を愛おしく思い「命を守る」ことを考えて行動します。

最後になりますが、本年も蔦沢小学校の教育にご理解・ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

新校創立記念の寄贈について

○旧伊水小学校卒業生、北山新太郎様の親族の皆様より、書架二本を寄贈していただきました。現在、図書室に設置し、活用しております。

○旧都多小学校卒業生、日本画家である中上泰三様から、日本画『盛夏』を寄贈していただきました。現在、児童玄関に飾っております。

この度は、新校の創立にあたり、ご寄贈をありがとうございました。こと心より厚く御礼申し上げます。末永く大切に活用させていただきます。

PTA研修部活動を振り返って

研修部長

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より蔦沢小学校の活動にご協力、ご理解いただき本当にありがとうございます。

総じて各部の活動については、本年度もコロナの影響で自由な活動ができなかったことを、非常に残念に感じています。そのような中、研修部としては、九月の参観日の後に、校長先生や教頭先生、諸先生方のご協力をいただき、対象学年を絞った形で、外部講師をお招きした教育講演会を開催することができました。

また、十月には親子映画会、十二月にはPTC Aフォーラムへの参加等、私自身もPTA活動の一役として参加できたことで貴重な経験をさせていただきました。

コロナ、コロナとうんざりではありますが、嬉しいことに少しずつ本来の学校活動が再開されそうですね兆しが見えてきました。

子どもたちは、学校の外へ聞こえるくらい大きな声で笑うことができ、友達と思いきり走り回って、楽しく給食を食べ、ストレスなく学べる環境へと早く戻ること、PTA活動についても本来の活発な活動が元通りに実施できるようになることを願っています。

今後も引き続き皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

冬休みの生活作文より

「ゆきあそび」

わたしは、ふゆ休みにちくきのおじいちゃんとおばあちゃんといえでそりすべりをしました。ゆきころがして大きいゆきだるまもつくりました。そりすべりはさいしよはこわかったけど、一かいすべってみるとたのしかったです。もう一つのすべるところもさいしよはこわかったです。みぞにおちそうでした。でもたのしかったです。おにいちゃんといっしょにそりにのってすべりました。一人でのるより二人でのったほうがたのしかったです。ながぐつの中にゆきがたくさん入りました。ストーブのへやについて、おにいちゃんといっしょにあたたまりました。

とてもたのしいゆきあそびでした。またゆきがふつたらしたいです。

「お正月」

しんせきのみんなであつまって、なべをたべたよ。たのしかったよ。

「はつもうでに行った」

ぼくと弟とお父さんで、あんじいなりにはつもうでに行きました。入り口の上に大きなうさぎのかざり物があって、家ぞくでしやしんをとりました。とてもかわいくて大きなうさぎでした。歩いてじんじやまで行きました。そこで、おさいせんを入れてねがいごとをしました。おまもりを買いました。おみくじもしました。おみくじは大きかったです。そして、帰りにお店で、からあげとカステラを食べました。

さいごに、家でたこあげをしました。楽しかったです。

「冬休みの思い出」

冬休みで一番楽しかった思い出は、お正月に行った神戸です。神戸ではホテルにとまり、水族館に行きました。

初めて行く水族館は、どんな魚がいるのかな、どのくらい大きな水そうがあるのかなとわくわくしました。

一番始めのフロアは、キラキラした光の部屋にきれいな魚がたくさんいて宝石のようでした。

次のフロアには、大きな水そうがあり、ぼくの好きなサメが泳いでいました。小さい水そうもたくさんあって、一つ一つが主役になっていました。

他の水族館とちがって大きな魚を近くで見れたり色んな風けいがあり、とても楽しめました。三学期もがんばろうと思いました。

「初もうで」

二日に初もうでに行きました。

人がすごく多かったです。大きなウサギのかざり物がありました。とてもびっくりしました。屋台がたくさんあってワクワクしました。手を合わせておねがいをしました。その後、おみくじを引きました。ぼくは、大吉を引きました。去年も大吉だったのでとてもうれしかったです。

最後に、ぼくの大好きな黄金のとりからを買いました。とてもおいしかったです。今年も良い一年になるといいな。

「冬休みのでき事」

みなさん、冬休みにどんなことがありましたか。ぼくは、冬休みにいろいろありました。楽しいできごとがたくさんで、さいわいでいました。

それでは、楽しかったこと一つ目を発表します。一つ目は、クリスマスに食べた、大きいとり肉です。とり肉にほねがないことにびっくりしました。大きいお肉でほねなし肉もあるんだとびっくりしました。

「神社めぐり」

二つ目は、いとこの家に行ったことです。理由は、外で遊ぶ時、すべり台ボール当てをして、にげる、当てるのくり返しを楽しんだからです。

みなさんは、クリスマスに何を食べてしょうか。みんなが元気に学校に来ると、ぼくも元気でハッピーな気分で行くことができます。病気になるずに来てください。新年早くもいいことだらけで最高でした。みなさん、今年もよろしく願っています。

ぼくは、二つの神社に初もうでへ行きました。一つ目は、あこう市にある大石神社です。二つ目は、岩上神社です。

一つ目の大石神社では、お参りとおみくじをしました。結果は、残念ながら大吉ではなく、小吉が末吉でした。来年こそは大吉を引きたいです。神社の中を見回すとスパーボールすくいやくじ引き、からあげ屋等の色々な屋台がありました。でも、ぼくは何もせず、大石神社を後にしました。

二つ目の岩上神社は、ぼくはすごくこわかったです。理由は、熊が心配だったからです。冬眠をしても、来るときは来るし、岩上神社はけっこう山おくなのでこわかったです。しっかりとずずを持っていったので熊は出ませんでした。ぼくたちだけじゃなく、岩上神社にお参りしている人もいました。こうして、神社めぐりが終わりました。

「友だちと映画」

私は、今日家族と友だちと一緒に映画を見に行きました。

姫路のアースシネマズで映画の音が映画館内を駆け回るといふ音響ですごいバイジョンを聞きました。友だち二人とポップコーンを分けて食べました。

私が見たのは「スラムダンク」という二十五年くらい前のバスケットボールの有名な作品でした。

普通のテレビアニメとは絵柄や声優が違って、内容も試合の主人公じゃないキャラクターの視点で心情や物事が描かれていてすごく新鮮で面白かったです。

自分の好きなキャラクターも活躍していて毎回主人公のチームにピンチが起きると、ハラハラドキドキ

て目が離せませんでした。

「スラムダンク」は何年も前の漫画なのにまだいっぱいファンがいてすごい作品なんだと改めて実感しました。

映画でもそのアニメの中に入り込んだような感じでリアリティがあって面白かったです。つい身を乗り出して見入ってしまいました。あと一秒のところまで主人公たちが点を入れて勝った時はすごく感動しました。行きたかった映画に友だちと行けてとてもうれしかったです。すごくいい思い出になりました。

2月の行事予定

- 1日(水) お楽しみ読書
読書講師招聘校内授業研究会
- 2日(木) 授業参観日・学級懇談会
- 3日(金) 学校評議員会
- 4日(土) アルミ缶回収
- 7日(火) 新入生入学説明会・体験入学
- 10日(金) ALT 来校
- 11日(土) 建国記念の日
- 13日(月) 集金日

1月の行事予定

- 14日(土) アルミ缶回収
- 16日(月) 校内席書大会
- 17日(火) ささゆり号来校
1.17を忘れない集会
- 18日(水) お楽しみ読書
- 19日(木) 講師招聘校内授業研究会
全校終会14:50
- 20日(金) 外国語指導員来校
- 21日(土) ~22日(日)
書初展【宍粟防災センター】
- 27日(金) PTA 本部役員会

